

福井県文書館ホームページの評価

神田 竜也*

はじめに

1. 福井県文書館ホームページの内容構成
2. 今後に向けての提案
 - a. 目録データベースの検索手段の多様化
 - b. 収蔵資料のデジタル化の推進・新しいコンテンツの構築
 - c. ホームページの保存・蓄積

おわりに

はじめに

2003年2月に開館した福井県文書館では、インターネットでの利用を前提とした文書館情報システムが設計されている。そして、文書館単独でWebサーバを構築し、「収蔵する歴史的価値のある公文書や古文書等の目録情報に加え、福井県の歴史資料に関するデジタルコンテンツをインターネットによって広く情報提供を行っている¹⁾とあるように、ホームページ上での情報発信が行われている²⁾。

本稿では、2005年2月末時点の福井県文書館ホームページにおいて、どのような内容の情報発信が行われているのかを概観・評価するとともに、今後に向けた提案を述べていく。

1. 福井県文書館ホームページの内容構成

福井県文書館のホームページにアクセスすると、図1のようなトップページ(HOME)が最初に表示される。すっきりとした印象を与えるデザインのトップページには、メニュー・カバーフォト・リンクバナー・文書館の連絡先などが掲載されている。

メニューは、[ようこそ!福井県文書館へ][利用案内][収蔵資料の概要][目録データベース][デジタル歴史情報][お知らせと更新履歴][出版物][Q & A][条例・規則等]の9つから構成されている。以下、各内容の概要を簡単に紹介しておきたい。

[ようこそ!福井県文書館へ]

館長による文書館の案内文、外観および閲覧室の写真が掲載されている。

[利用案内]

「開館時間」「休館日」「利用について」「研修室について」「交通案内」が掲載されている。

[収蔵資料の概要]

「歴史的公文書」「古文書」「行政刊行物」についての概要が掲載されている。

* 愛知教育大学非常勤講師

[目録データベース]

[収蔵資料目録データベース]
[記事検索データベース] が提供
されている。

[デジタル歴史情報]

[福井県史通史編] [図説福井県
史] [福井県史年表] [福井県史統
計編] [福井県庁事務分掌(整備
中)] [閲覧室展示コーナー] [古
文書入門講座] が提供されている。



図1 トップページ画面

[お知らせと更新履歴]

講座や講演会などのお知らせや更新履歴一覧が掲載されている。

[出版物]

過去の出版物の情報が掲載されている。また『文書館だより』『年報』『研究紀要』の全文を
閲覧することもできる。

[Q & A]

文書館の業務や調べたい事等について質問を受け付けるための [レファレンス受付 [メール
受付用フォーム] が提供されている(なお回答に関する記事は掲載されていない)。

[条例・規則等]

「福井県文書館の設置および管理に関する条例」「福井県文書館の設置および管理に関する
条例施行規則」「福井県行政組織規則」「福井県事務委任規則」「福井県事務決裁規程」「福井
県文書規程」が掲載されている。

このような内容で構成されているが、シンプルなデザインのトップページのために、どのような内
容が発信されているのか、一見しただけではわかりにくい。メニューの下層部が表示される仕組み、
あるいは全体を見渡すことができるサイトマップなどがトップページ内に用意されていると親切であ
らう。

さて、福井県文書館が発信している情報の中でも、特色あるものとして位置付けられる [目録デー
タベース] [デジタル歴史情報] について詳しく述べてみたい。

[目録データベース]

[目録データベース] は、先に述べたように [収蔵資料目録データベース] と [記事検索データベ
ース] の2種類が提供されている。

[収蔵資料目録データベース] は、

- ・公文書(整理が済んで現在利用できるもの約27,000件)
- ・古文書(福井県史編さん時(1978~98年)に収集された古文書の複製資料など約122,000件)
- ・行政刊行物(福井県刊行の行政刊行物・他府県史・資料保存利用機関刊行物など約9,500件)
- ・写真(『図説福井県史』に掲載の写真など2,790点)

の4項目で構成され、それぞれに独自の検索画面(キーワードから検索を行う「簡易検索」と、各項目値から検索を行う「詳細検索」の2種類)が用意されている。また、古文書目録については、史料の目録情報だけではなく、史料を所蔵する家(資料群)に関する情報も提供されている点、そして中世文書の一部については、図2のように翻刻文の全文テキストおよび画像(現在4,668ファイルが提供されている)をコンピュータ上で閲覧できる点が注目される。

[記事検索データベース]は、

- ・福井県報(戦前福井県の布達・県令・訓令、戦後福井県の条例・規則・告示など33,000件)
- ・新聞記事(福井県史編さんの過程で選択した新聞記事25,000件)

の2項目で構成され、やはりそれぞれに検索画面が用意されている。また、文書館の閲覧室内のコンピュータからは一部の新聞の画像も閲覧できる。

この[収蔵資料目録データベース]については、まずこのような目録データベースが整備されていること、そしてホームページ上で公開されていることが、利用者サービスとして高く評価できる点である。特にホームページ上での公開は「ご家庭であらかじめ検索を行ってから御来館いただければ、効率よく資料が閲覧できます³⁾」と述べられているとおり、効率の良い調査を行う上で有効なサービスといえるだろう。

文書館の閲覧室でも検索画面は同様のものであるため、違和感なく検索を行うことができる点についても評価したい。インターネット技術を利用した検索システムならではの利点であろう。なお、閲覧室のコンピュータからは、目録上で選択した資料名が記入された「閲覧申込目録(控)」「閲覧・複製申込書」がプリントアウトできる。手書きで記入しなくてもよい点は非常に便利であり、これも評価できる点である。

また、更新履歴を見てみると、頻繁に目録データベースのデータが更新されていることがわかる。これは収蔵資料の目録作成作業と情報発信作業がうまく連動していることを示すものであり、文書館情報システムの設計が成功していることを示すものとして評価すべきであろう。

なお、検索システムの操作感については、慣れてしまえばそれほど問題なく使用できるレベルだと思われるが、検索結果画面などではブラウザの[戻る]ボタンが使用できず、若干違和感を感じた(もちろん、ホームページ内の[前画面]ボタンで戻るように設計はされている)。使い勝手に関しては、目録データベースの実際の利用者(閲覧者など)を対象とした調査を実施し、改善点の洗い出しを行うべきではないかと考えている。

[デジタル歴史情報]

[デジタル歴史情報]では、すでに刊行が終了した『福井県史』の成果をデジタル化した[福井県史通史編][図説福井県史][福井県史年表][福井県史統計編]、そし



図2 古文書資料の検索結果画面

て過去の文書館の活動の成果をデジタル化した[閲覧室展示コーナー][古文書入門講座]が提供されている。

[福井県史通史編]は1993年から96年にかけて刊行された『福井県史』の通史編全6巻をもとに、[図説福井県史]は1998年に刊行された『図説福井県史』をもとに「可能な限り刊行本の情報に忠実に本文を文字コード化し、図・表・写真をデジタル画像化」⁴⁾したものである。[福井県史年表]は1996年刊行の『福井県史 年表』の「歴史年表」部分のデジタル版、[福井県史統計編]は1993年刊行の『福井県史資料編17 統計』付録のフロッピーディスクのデータをもとに作成されたもので、CSV形式の統計データのダウンロードもできる。そして、これらのデータに加えて、古文書の全文テキスト部分なども含めた形で[デジタル歴史情報]内の全文検索が行える[フリーワード検索]も用意されている。[閲覧室展示コーナー]では、過去に開催された閲覧室展示「江戸時代の村から近代の村へ」「福井県誕生」に関する解説や展示資料の画像などを見ることができる。[古文書入門講座]は2003年に開催された古文書入門講座の概要・使用した古文書が紹介されている。これらは今までの文書館の活動の蓄積としての意味も持っている。また[古文書入門講座]で使用されている古文書には、翻刻文や解読のポイントなども一緒に掲載されているので、学習教材としても十分活用できるものとなっている。

この[デジタル歴史情報]については、刊行された『福井県史』がインターネット上で公開されているという点を高く評価すべきであろう。おそらく他の自治体史では前例がないものと思われる。このような学問的に信頼に足る情報がインターネット上で公表されることは、一般的に玉石混淆といわれるインターネットの情報の「玉」の部分が増えることであり、社会的に有意義なこととして評価すべきである。

また、全文検索のシステムを構築してある点も、利用者の利便性を高めるものとして評価できる点である。

ところで[目録データベース][デジタル歴史情報]は充実した内容であり、利用価値の高いものと思われるが、これらは一体どの程度周知されているのであろうか。少なくとも『文書館だより』で積極的に広報されたことはないようである。「福井県文書館ホームページにはこのような内容がありますよ」「こんなことを調べたいときには、このデータが使えますよ」「こう操作すれば、こんなことがわかりますよ」といったことを、具体的な操作手順や表示画面などを交えながら広報をすれば、利用者の幅も広がるのではないだろうか。

2. 今後に向けての提案

ここでは、今後福井県文書館ホームページで取り組んでいただきたいと思ったことを提案していきたい。

a. 目録データベースの検索手段の多様化

先に述べたように、目録データベースが整備され、そして今なおデータが追加されていることは高く評価できる点である。今後はさらに一歩進んだ形で、検索手段を多様化していくことが、利用者の利便性向上に繋がっていくものと思われる。

現在の検索画面は、特にキーワード検索に重点を置いた設計となっており、ディレクトリ型の検索ではない。特に古文書検索においては、家(資料群)情報の一覧目録があり、そこから検索を開始できるようなものがあれば便利ではないかと思われる⁵⁾(もちろん、検索方法に慣れてしまえば、家情報の地域別一覧を引き出すことはそれほど難しいことではないが)、また資料点数の多い資料群で階層構造の分析ができるものについては、それらを反映した形での資料目録も用意できれば便利であろう⁶⁾。

また特定の主題(利用者の調査対象となりやすいもの、『福井県史』で掲載したものなど)を設定し、それに合わせた資料目録を用意するといったことなども、利用者の興味を引く点では有効な方法ではないかと思われる。

b . 収蔵資料のデジタル化の推進・新しいコンテンツの構築

現状でも、古文書資料の一部で全文テキスト・画像の閲覧が可能であることは先に述べたとおりである。これを他の収蔵資料でも全文テキスト・画像が閲覧できるように、目録データベースの内容をより充実させていくことが、今後の活動の中心となっていくのではないかと考えている。ただし、それ以外にも、新たな価値を持ったコンテンツを構築し、情報発信を行っていくべきであろう。ホームページは文書館の教育・普及活動の「場」としての役割を果たすことも可能である。例えば博物館・資料館とは違い、文書館では展示スペースに限界がある。この限界を克服する手段として、収蔵資料をデジタル化し、テーマを決めてホームページ上で公開したり⁷⁾、また実際に行われている展示に関連する情報をホームページ上で補足したりすることが考えられる。また、学校教育や生涯学習支援として、ホームページ上で学習教材を提供するといったことも可能であろう⁸⁾。新しい利用者を獲得していくためにも、様々な試みを行っていただきたい。

また、現在提供されているコンテンツに関しても、見せ方という点でまだ工夫の余地があると思われる。例えば、先に述べたように[古文書入門講座]で紹介されている古文書は、学習教材としても十分活用できるものとなっているものの、講座を紹介するというページ構成上、古文書が提供されているページは深い階層に位置し、一見ただけではわからない(例えばトップページからはこのような古文書の学習ができるようなコンテンツがあることはわからない)。また、どのような古文書が紹介されているのかも、そこまでたどり着かないとわからない。もし古文書学習のための利用者の利便性を考えるのであれば、もう少し工夫をすべきであろう。利用者の利便性を考えた情報提供をおこなわなければ、せっかく有益なコンテンツが用意されていても、有効活用されずに見過ごされてしまう可能性がある。

c . ホームページの保存・蓄積

ホームページにおける情報発信とは直接関係しないが、ホームページそのものも未来に残すべき資料として適切に保存されるべきという観点から、何らかの方法でホームページのデータを保存・蓄積していただきたい。一例としては、定期的にその時点のホームページをまるごと保存してしまう方法がある。このような取り組みの代表的な事例としては、海外ではインターネットアーカイブ⁹⁾、国内では国立国会図書館が取り組んでいるWARP¹⁰⁾をあげることができる。しかし、組織が発信するホームページは、(どこの部署が保存・蓄積の責任を持つのか、どのようなデータを保存するのかについては別途議論する必要があると思われるが)やはりその組織が責任を持って保存に取り組むべきで

ある。少なくとも文書館が発信したホームページのデータについては、定期的に保存・蓄積し、将来的にそのデータを閲覧できるような仕組みを構築していただきたい。

おわりに

最後に、福井県文書館ホームページの評価すべき点をもう一つあげておきたい。それは、文書館の活動が常にホームページに反映されているということである。更新履歴を見れば、開館してから今日までのホームページへの取り組みの様子がよくわかるが(これだけ詳細な更新履歴を残していること自体も評価すべき点であろう)、収集資料のうち整理作業が終わったものを随時目録データベースに追加し、また各種行事・講座などについても適宜情報を追加している。当たり前のことであるが、実はこれが一番重要なことではないだろうか。

少ない人員でのホームページの維持・管理はかなりの負担かもしれないが、発信する情報の一層の充実、利用者の利便性向上への取り組みなどが継続して行われていくことを期待している。本稿がその一助となれば幸いである。

[付記] 本稿ではHTMLの構造、ユーザビリティ(使いやすさ)・アクセシビリティ(情報の利用のしやすさ)に関する問題点にはほとんど触れなかった。ウェブ・アクセシビリティに関しては、2004年6月20日に「高齢者・障害者等配慮設計指針 - 情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス - 第三部：ウェブコンテンツ」(JIS X8341 - 3)が日本工業規格として制定されており、またこれを踏まえる形で、福井県では「福井県ウェブページ作成ガイドライン」を策定中である。今後これらのガイドラインをもとに、自己点検を行っていただきたい。

注

- 1) 福井県文書館『福井県文書館年報』1、2004、6頁。
- 2) <http://www.archives.pref.fukui.jp/index.html> なお、厳密にWebページ、Webサイトと表記すべきとの意見もあるが、本稿では福井県文書館が「ホームページ」という言葉を使用していることに従い「ホームページ」と表記する。
- 3) [ようこそ！福井県文書館へ]内の記述より。
- 4) [福井県史通史編]内の凡例より。
- 5) 紙媒体ではすでに『福井県文書館資料目録 第1集 古文書1 資料群』(2004)が刊行されている。
- 6) 例えば、山口県文書館では、所蔵文書検索の一つに「階層検索」http://ymonjo.ysn21.jp/show/sh_ref_class.asp が用意されている。
- 7) 例えば、埼玉県立文書館のデジタル文書館 <http://www.pref.saitama.jp/A20/BA18/digital-a.html> などがある。
- 8) 教材をホームページ上で提供している事例には
栃木県立文書館「教材資料」 <http://www.pref.tochigi.jp/soumu/link/monjokan/course2.html>
群馬県立文書館「授業で使えるぐんまの資料」 <http://www.archives.pref.gunma.jp/gakko-siryosyu.htm> などがある。
- 9) Internet Archive(<http://www.archive.org/web/web.php>) Wayback Machineと名付けられた検索ボックスにURLを入力すると、そのURLのホームページのデータを収集した日付の一覧が表示され、日付をクリックするとその時点のホームページを閲覧することが可能である。2005年2月現在で福井県文書館については5件分、福井県については89件分のデータが収集されている。
- 10) WARP(インターネット資源選択的蓄積実験事業 <http://warp.ndl.go.jp/index.html>)は「ウェブ情報を文化資産として将来の世代のために保存する」実験事業であり、「電子雑誌コレクション」「政府ウェブコレクション」「協力機関ウェブコレクション」がインターネット上から閲覧可能である。なお「協力機関ウェブコレクション」の協力自治体として福井県も参加しており、2005年2月現在で6件分のデータが収集されている。

福井県文書館研究紀要 第2号

平成17年3月31日 発行

編集発行 福井県文書館
〒918-8113
福井県福井市下馬町51-11
Tel. 0776(33)8890

印刷 株式会社エクシート
〒919-0482
福井県坂井郡春江町中庄61-32
Tel. 0776(51)5678
